

協議事項58

これからの市立高等学校のあり方に関する有識者会議意見のまとめについて

これからの市立高等学校のあり方に関する有識者会議意見のまとめについて、協議事項として以下のとおり提案する。

令和7年3月12日提出

神戸市教育委員会事務局

事務局長 高田 純

これからの市立高等学校のあり方に関する有識者会議
意見のまとめ

令和 7 年 3 月 6 日

これからの市立高等学校のあり方に関する有識者会議

はじめに

日本の高等学校教育は、急速に変化する社会経済環境に対応するため、大きな転換期を迎えている。その象徴の一つでもある文部科学省が推進する普通科改革は、従来の枠組みを超えた柔軟な教育を目指し、生徒一人一人の多様なニーズに応えることを目的として進められている。さらに、少子化が進行する中において、高等学校教育の質を維持しつつ、各学校の特色を活かした魅力ある教育が求められている。

また、国の第4期教育振興基本計画では、地域社会や高等教育機関との連携を強化し、持続可能な社会の創り手を育成することが掲げられた。これにより、生徒が自らの価値を認識し、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り開く力を養うことが期待されている。

現在、市立高等学校は一定の評価を得ているところではあるが、これからも選ばれ続ける学校であるためには、地域社会との連携を強化し、これまで以上に学校の特色を明確に打ち出すことが重要である。生徒が主体的に学び、自己実現を図るための支援体制を整えることで、魅力ある学校づくりを進めていかなければならない。

このような状況を踏まえ、本有識者会議では国の方向性に加え、神戸市教育振興基本計画、生徒・教員対象のアンケート結果を参考に、「市立高等学校（全日制）が目指すべき方向性」について議論を深め、（1）さらなる特色化の必要性、（2）育てたい人材像の設定、（3）キャリア教育の充実、（4）文理融合型探究、（5）中高一貫教育・高大連携の検討、（6）普通科のあり方、の6つの観点から意見をまとめている。

神戸市教育委員会においては、本報告書を踏まえ、市立高等学校の教育の充実はもとより、市全体の学校教育の向上につながることを切に期待する。

令和7年3月
これからの市立高等学校のあり方に関する有識者会議
会長 浅野 良一

【目 次】

1. 市立高等学校の現状と課題

- (1) 市立高等学校の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - ①市立高等学校の概要
 - ②これまでの改革・再編
 - ③各校の特色
 - ④主な意見
- (2) 社会環境の変化と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - ①少子化の状況
 - ②生徒及び教員の意識等
 - ③国における普通科改革
 - ④国の「高等学校教育の在り方ワーキンググループ」中間まとめ
 - ⑤第4期神戸市教育振興基本計画
 - ⑥主な意見

2. 市立高等学校の未来像

- (1) 市立高等学校が育てたい人材像・・・・・・・・・・・・ 10
- (2) 重視すべき教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - ①教育プログラム
 - ②人・モノ
 - ③制度・仕組み

3. これからの市立高等学校の方向性

- (1) さらなる特色化の必要性・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- (2) 育てたい人材像の設定・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- (3) キャリア教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- (4) 文理融合型探究・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- (5) 中高一貫教育・高大連携の検討・・・・・・・・・・・・ 14
- (6) 普通科のあり方・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

〔参考〕 これからの市立高等学校のあり方に関する有識者会議について・・・・ 25

- ・ 開催要綱
- ・ 委員名簿
- ・ 開催実績

1. 市立高等学校の現状と課題

(1) 市立高等学校の現状

有識者会議では、全日制市立高等学校（以下「市立高等学校」と表記）の現状や再編の経緯、これまでの取組や特色などを踏まえて検討を行った。

①市立高等学校の概要（令和6年度）

○設置学科、募集定員

高校名	設置学科	募集定員
六甲アイランド	普通科（単位制）	360人（9学級）
科学技術	機械工学科 電気情報工学科 都市工学科 科学工学科	360人（9学級）
葺合	普通科 国際科	360人（9学級）
神港橘	みらい商学科	320人（8学級）
須磨翔風	総合学科（単位制）	280人（7学級）

②これまでの改革・再編

市立高等学校では、神戸市教育懇話会報告書「神戸市立高等学校の将来を考える」（平成6年4月）をグランドデザインとして、高等学校教育改革を進めてきた。

報告書で示された具体的な高等学校像は以下の通りで、9校あった市立高等学校（全日制）の再編統合を進め、現在は全日制5校となっている。

○パイロット・スクールとしての総合選択制高等学校の創造

新しい理念と構想のもとで普通科総合選択制高等学校を設置し、大胆な高等学校教育改革に取り組むことが望まれた。

21世紀の市立高等学校のパイロット・スクールの役割を担うもので、その成果は既存の普通科高等学校の改善にも生かされることが期待された。

⇒神戸商業高等学校と赤塚山高等学校（普）を再編統合し、**六甲アイランド高等学校**（普通科総合選択制〔のち単位制〕）を開校

○神戸らしい国際高等学校の創造

海外帰国子女や外国人留学生、さらには在神戸外国人の子女と日本人生徒が共に生活し学習できる環境を整備し、異文化交流を通して世界に目を開き、国際コミュニケーション能力、国際理解能力を高めると共に、日本語・日本文化に対する理解を深めることを目指すものとされた。

⇒**葺合高等学校**（普・英）の英語科を改編し、国際科を設置

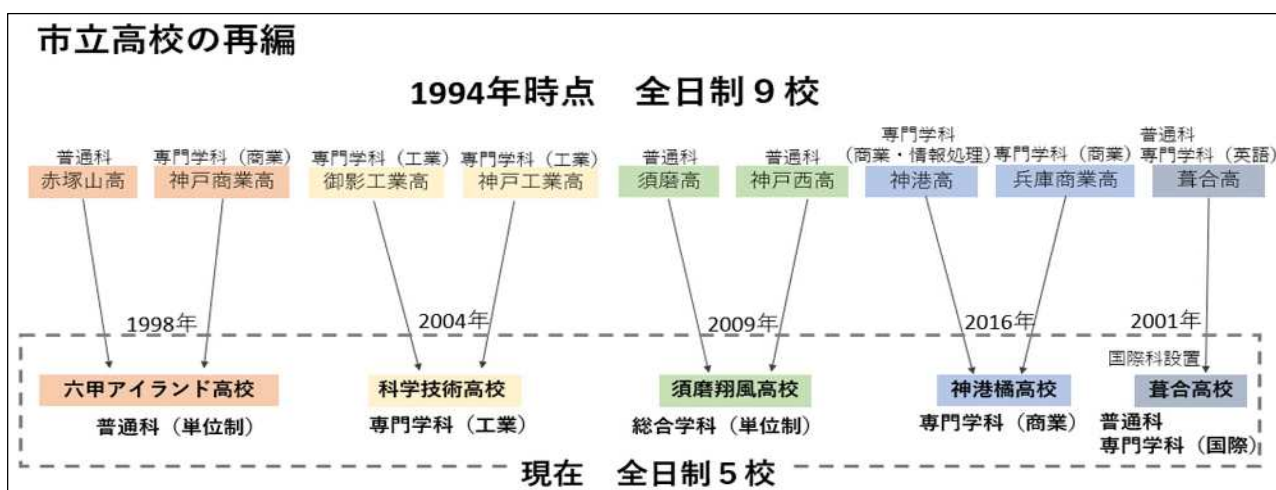
○都市型専門教育を実現する高等学校の創造

これまでの完成教育としての産業人の育成という役割だけでなく、さらに職業教育を継続する生涯学習能力をもった産業人の育成という二重の役割を担う教育システムへの再編を目指すものとされた。

⇒御影工業高等学校と神戸工業高等学校を再編統合し、**科学技術高等学校**を開校

⇒須磨高等学校（普）と神戸西高等学校（普）を再編統合し、**須磨翔風高等学校（総合）**を開校

⇒兵庫商業高等学校と神港高等学校（商・情）を再編統合し、**神港橘高等学校（商業）**を開校



③各校の特色（「資料1」参照）

神戸市立高等学校（全日制）は5校あり、各校の特色に応じて多様な学科とコースがあり、生徒の進路に合った専門的な学びの機会が充実している。

5校ともキャリア教育に力を入れており、生徒は1年から手厚いサポートを受け、2・3年の類型・系、コース等の学習を通して、個性を一層伸ばすことができる。

○六甲アイランド高等学校

神戸をテーマにした探究活動や先進的な理数教育をはじめ多様なニーズに対応した教育活動を推進

○科学技術高等学校

地域の産業界を担う「未来志向エンジニア」の育成のために、DX時代に適応する先進的な教育を推進

○葺合高等学校

先進的な英語教育や海外姉妹校との交流等世界を視野に入れた教育活動を展開

○神港橘高等学校

通年型インターンシップ等による課題解決型学習や高度かつ実践的な商業教育を推進

○須磨翔風高等学校

多様な選択科目と個別時間割による生徒一人一人のニーズに応える教育を推進

④主な意見

- 現在も市立高等学校では特色ある取組を行っているので、生徒がそれをどう評価しているのか把握したうえで、ポジティブな検討をしていきたい。
- 偏差値や大学進学実績は目につきやすいが、受験生や関係者以外にも市立高等学校の取組をもっとアピールすると良いのではないかな。
- 各校の特色をさらに出していくにあたっては、学校個々の文化をどのように守っていくか、あるいは新しい教育内容となじませていくか検討する必要がある。

(2) 社会環境の変化と課題

①少子化の状況

少子化が急速に進行しており、2023年に生まれた子どもが15歳を迎える2038年には、15歳人口は34%減少することが見込まれる。



②生徒及び教員の意識等

○「これからの神戸市立高校を考えるアンケート」概要

〔目 的〕 高等学校選択の理由や授業に対する意識等について生徒の実態を把握し、市立高等学校における教育活動の改善及び育てたい生徒像を実現するための教育内容を検討する。

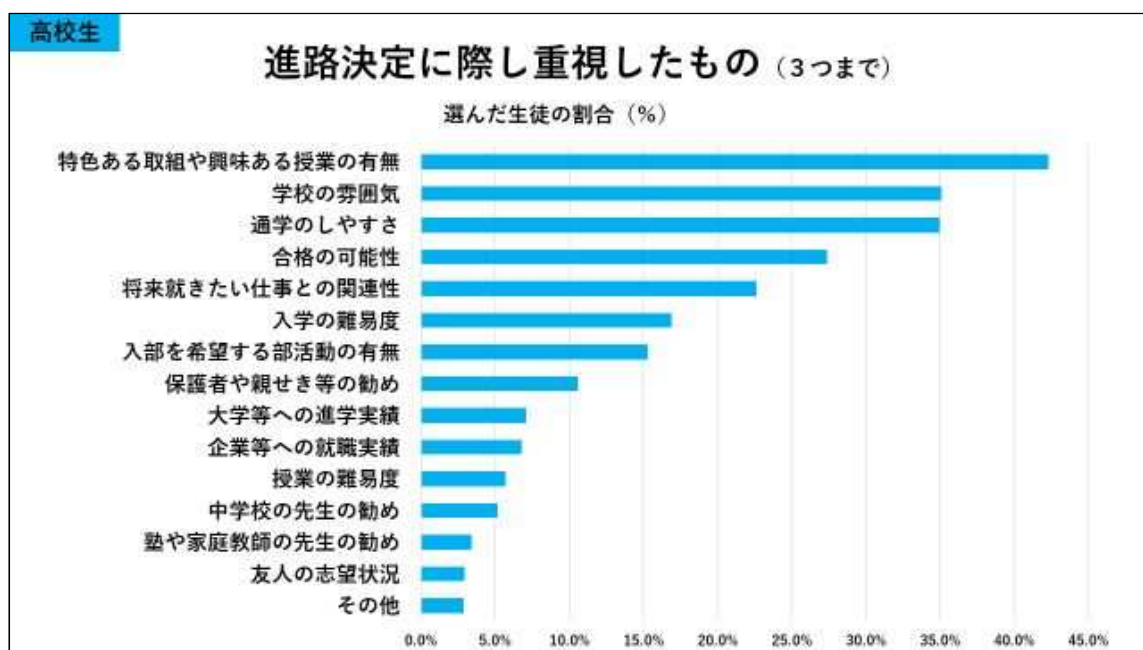
〔期 間〕 令和6年5月13日～5月31日（教員は23日まで）

〔方 法〕 インターネットで回答（任意）

〔回答者〕 市立高等学校（全日制）の生徒 3,292名 教員 315名
市立中学校の生徒（3年生） 6,973名

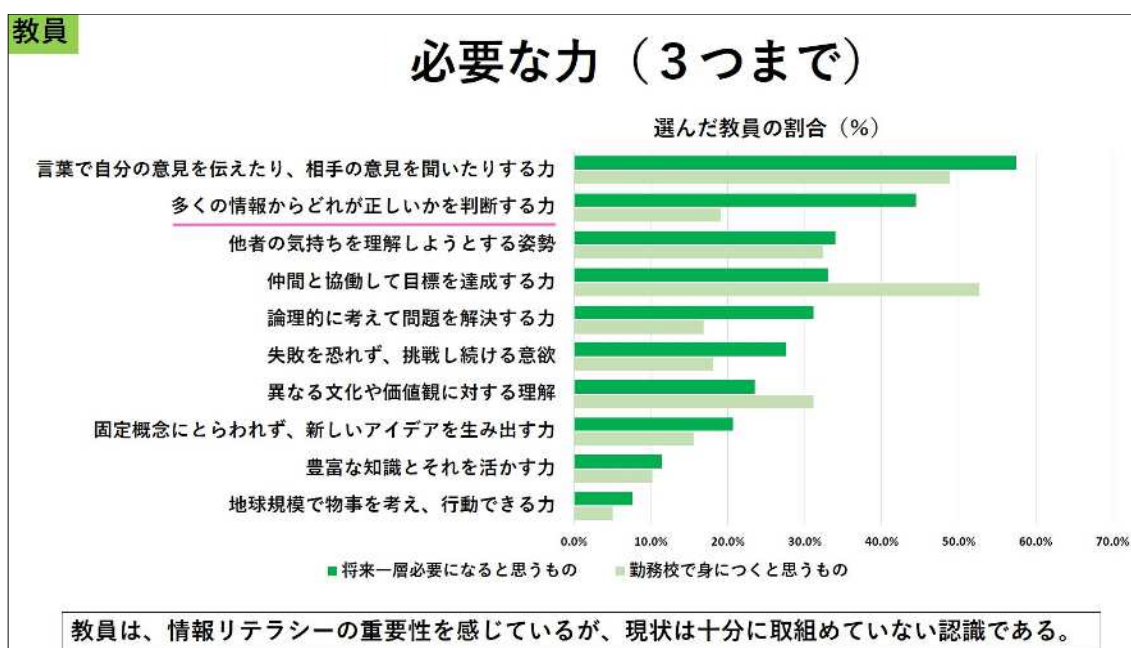
○回答結果（抜粋）

- ・進路決定に際し、高校生が重視したもの（高校生全回答）



※各校の結果は「資料2」参照

- ・社会で必要な力（教員）



③国の普通科改革（「資料3」参照）

令和3年1月の中央教育審議会答申において、「普通教育を主とする学科」の弾力化が示された。背景として、普通科には高校生の約7割が在籍する一方で、生徒の能力・適性や興味・関心等を踏まえた学びの実現に課題があることが指摘された。

普通科においても、生徒や地域の実情に応じた特色・魅力ある教育の実現が必要であり、総合的な探究の時間を軸として、生徒が社会の持続的発展に寄与するために必要な資質・能力を育成することが求められた。

これまで「普通教育を主とする学科」は「普通科」のみとされていたが、「学際領域に関する学科」「地域社会に関する学科」「その他普通科」等が加えられた。

なお、兵庫県立高等学校では、令和6年度より7校が普通科新学科に改編された。

（「資料4」参照）

④国の「高等学校教育の在り方ワーキンググループ」中間まとめ

高等学校において「令和の日本型学校教育」を構築するため、①高等学校教育のあり方（多様性と共通性の観点からの検討）、②少子化が加速する地域における高等学校のあり方、③全日制・定時制・通信制の望ましいあり方、④社会に開かれた教育課程の実現、探究・文理横断・実践的な学びの推進について議論が重ねられている。

速やかに取り組むべきと考えられるものについては、その具体的方策が示された。

以下はその一部を抜粋したものである。

項目	学校・設置者等による具体的方策
普通科改革の推進、コーディネーターの配置支援	○関係機関等との連携協力体制の構築やコーディネーターの配置の充実を図りつつ、探究的な学び・STEAM教育等の文理横断的な学び・実践的な学びの展開 ○普通科改革の検討を含め、高校の特色化・魅力化を推進
国際的な教育を行う高等学校の整備推進・運営支援	（グローバル人材育成に資する拠点校） ○国内外の大学等との連携により文理横断的な知を結集し、社会課題の解決や学術的な問いに向き合う探究的な学びを展開
理数系教育の更なる充実	○スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の成果を参考にしつつ、高等学校段階における生徒の理数系教育への興味・関心の一層の向上に向けて必要な取組を実施
産業界等と専門高校の連携・協働の強化	（専門高校） ○企業等の外部の方が学校運営に参画し、教育界と産業界等をつなぐ役割を持った人材が伴走しながら、協働して社会に開かれた教育課程を実現する取組を展開
学校と地域社会の連携・協働の推進	○コミュニティ・スクールの導入や地域学校協働活動推進員の配置等により、家庭や地域、企業等の関係機関と連携・協働した教育活動を展開

⑤第4期神戸市教育振興基本計画

学校を取り巻く社会環境が大きく変化していることなどを踏まえ、今後5年間、神戸の教育が目指すべき方向性を明らかにするため、令和6年4月に第4期神戸市教育振興基本計画を策定した。

高等学校の教育内容に大きくかかわる「基本政策1/子供が主役のこれからの学び」では、「重点施策」として次の項目を示している。

- ・ 自他を尊重し、命を大切にする心の育成
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの充実
- ・ 社会とつながる探究的な学びの充実
- ・ 英語の実践的なコミュニケーション能力向上及び異文化等の理解
- ・ 主体的に運動やスポーツに親しむ機会の拡充
- ・ 体験学習や芸術文化活動の充実
- ・ 想像力、思考力、表現力等を養う読書活動の推進
- ・ 神戸ならではの防災教育の推進
- ・ AI等の技術や情報を適正に活用する力の育成
- ・ 全日制高等学校の特色化・魅力化と定時制教育の充実

⑥主な意見

○市立高校生のアンケートの回答を見ると、中学生から選ばれる高等学校になるには、どんな特色を打ち出せるかが重要であり、市立高等学校は、それぞれの特徴がよく出ていると感じる。

○高等学校の特色や将来の仕事を意識しているなど、生徒の前向きな回答が多く、これは大所帯ではない市立高等学校だからこそできることで、約20年前の大幅な再編は成功と言える。今回も全体最適というより、選択的に「〇〇ができる高等学校」を検討するのがよい。

○教員が「社会に出て必要な力」として多くあげている「情報リテラシー」について、フィールドワーク的な方法で生徒の能力を高めるようなシステムがあるとよい。

2. 市立高等学校の未来像

(1) 市立高等学校が育てたい人材像

有識者会議では、社会環境の変化や、生徒・教員の意識等を踏まえ、「市立高等学校が育てたい人材像」を下図のようにまとめた。

中心の3つの人材像が目指す人材像であり、その結果として、自分自身や社会全体の幸せを求めていくことをイメージしている。

また、外側の円には、高等学校教育で育てる資質・能力を掲げている。



【主な意見】

- 高等学校段階では、自分と他者の違い、人によって考えや抱えている課題が異なることをしっかり理解することが大切である。
- 生徒が自分自身としっかりと向き合い、やりたいことや自身にとっての幸福を見つけることが重要である。
- 不登校経験や多様な特性を持つ生徒もいる中で、気持ちに寄り添って行動できるような人材が必要である。
- 企業での課題解決には、専門性や得意分野に特化した能力（卓越性）のある人材が求められている。
- これからの時代において、ICTスキルや英語能力は、基礎能力として大切になるだろう。

(2) 重視すべき教育

①教育プログラム

【主な意見】

- 生徒が自分自身の興味関心や価値観について考え、将来について一定の方向性を見出せるような取組が大事であり、起業家の方と一緒に自分のキャリアについて考える機会があれば目標設定につながるのではないかと。
- わかりやすい社会課題に対して、生徒は探究学習のモチベーションを持ちやすいので、過疎地など他の地域と交流することも面白いのではないかと。
- どんな領域でもDXを大切にした教育が必要になる。文理融合型探究の1つの形として、「農業+DX」が良いプログラムになるのではないかと。
- 文系・理系を問わず幅広い知識や分析力が必要となるので、データサイエンスの分野に力を入れるべきではないかと。
- 学校推薦で大学進学する生徒が多くなっており、進路が決まった後の期間を活用して、文理融合的なプログラムを考えてみてはどうか。
- 高校時代から生成AI活用能力を身につけていくことが必要ではないかと。探究活動の中で生成AIの活用法を考えさせることも有益である。

②人・モノ

【主な意見】

- 外部連携による学習は、責任感や自己有用感を高めるほか、課題設定や解決能力、データ活用能力、多様性の理解、チームワーク等を総合して向上させることができるため、教育効果が高い。
- 探究学習等の外部連携をサポートするコーディネーターを配置している自治体もある。
- 学校の中で、社会人を含むたくさんの人と生徒が自由に話す機会を多く設けることで、生徒の考え方に広がりが出るのではないかと。
- 教えることが学びにもつながるので、先輩が後輩に教えるというように、並走しながら気軽に相談できるような仕組みがあればいいと思う。

③制度・仕組み

【主な意見】

- 中高一貫教育は、高校受験がないため探究学習などに時間をかけて取り組めるメリットがある。また公立学校であれば、家庭の経済的な面でバランスをとる観点からも意義がある。
- 公立学校において中高一貫教育を検討するのであれば、単に中学受験の選択肢を増やすということではなく、私学に多い中高一貫教育校の成果等をよく検証し、義務教育学校とのすみ分けを含めて、意義を明確にする必要があるのではないかな。
- 神戸の市立高等学校は多様な領域を5校がうまくカバーしているので、中高一貫教育校を設置せずとも、神戸市外国語大学との高大連携を検討してはどうか。
- オンラインを活用して市立高等学校5校のネットワークを強化し、特色ある授業の単位互換制度ができないかな。
- 普通科について、さまざまな分野の基礎知識等（リベラル・アーツ）を横断的に学ぶことは大切である。生徒目線で新しい名称を考えたり、多様性を重視し、生徒の興味関心に応じた学びを提供する単位制への改編も検討してはどうか。
- 普通科は入試においても制約が大きい。学際的な学科への改編も含め、現在の枠組みから抜け出すことも考えてみてはどうか。

3. これからの市立高等学校の方向性

(1) さらなる特色化の必要性

神戸の市立高等学校は、時代を先取りし、社会環境の変化に適切に対応するため、大幅な再編統合を進めてきた。

その結果、各学校においてそれぞれ魅力ある特色が発揮され、生徒へのアンケート結果からもわかるように、数ある学校の中から市立高等学校を選択して入学してきた生徒の思いに応えることに成功している。

しかしながら、急速に進むことが予想される少子化や、生成AIをはじめとしたICTの発展、社会の一層のグローバル化、さらには、公立・私立に関わらず高校の授業料について、所得制限を設けずに無償化する取り組みが国において議論されるなど、市立高等学校を取り巻く環境はこれまで以上に急激に変革することが考えられる。

そのような中で、市立高等学校が生徒に選ばれ続け未来を担う人材を育成し続けていくためには、危機感を持ってそれぞれの学校の特色をさらに伸ばし、時代の変化に対応した神戸市ならではの教育環境を提供していくことが求められる。

(2) 育てたい人材像の設定

有識者会議では、これからの市立高等学校のあり方を検討するにあたり、市立高等学校の現状や取り巻く状況を踏まえ、「市立高等学校が育てたい人材像」を設定した。

市立高等学校では、「世界で活躍する人」「地域に貢献する人」「新たな価値を創造する人」の3つの人材像を目指し、生徒が自分自身としっかりと向き合うとともに、多様な他者を理解し、協働することで、自分や社会全体の幸せを希求していくことをイメージしている。

また、そのために必要な10の資質・能力を高等学校の段階で育てていくこととしている。

(3) キャリア教育の充実

このような人材育成のためには「キャリア教育」の一層の充実が求められる。

市立高等学校の教員アンケートでは、半数を超える教員が「勤務校で特に力を入れているもの」として「キャリア教育」と回答している。

「キャリア教育」は高等学校で完結するものではなく、長いスパンで考え、繰り返し取り組んでいく必要がある。まずは、生徒が自分自身の興味関心や価値観について考え、その後、社会課題に対して自分がどういうことができるか、何か思うことができる第一歩になる。

今後は、必ずしも「教育プログラム」としての形にこだわらずに、生徒が起業家等の社会人を含む多様な人々とキャリアについて自由に話す機会を設けるなど、生徒がより主体的に自分自身の興味関心や価値観について考え、自己理解を深めていけるような環境づくりが求められる。その際には、外部人材との連携をサポートするコーディネーターの配置等について積極的に検討されたい。

（４）文理融合型探究

大学や企業では幅広い知識を持った人材が求められており、さまざまな場面で「文理融合型探究学習」に注力する必要がある。

探究学習の実施にあたっては、教育効果をより高めるための工夫が大切である。身近なテーマや疑問に関する探究を通じて、生徒の興味関心と社会課題のつながりを考えることができれば、持続可能な社会の発展に資することができるだろう。

さらに、地域や企業等との連携として、例えば市内の人口減少が進んでいる地域の課題研究、神戸に拠点を置くグローバル企業との共同研究、今後、成長可能性が見込まれる一次産業など地域産業の未来について考える探究といった、神戸に根差した探究学習を展開することができるのではないかな。

また、生成ＡＩをはじめとした先端技術を活用し、データサイエンスやＤＸによる課題解決の考え方や事例を踏まえることで、より精度が高く説得力のある実践的な学びとすることができる。

自分事として課題に取り組むことが重要であり、高等学校における探究学習をきっかけとして、自分が何をなしたいか考え、自分たちの未来は自分たちで創ることができるようにになれば、大きな成果につながるのではないかな。

（５）中高一貫教育・高大連携の検討

現在、多くの高等学校が抱えるジレンマとして、教育課程や授業時間数にゆとりがない中で、キャリア教育や探究学習の充実が求められている。

中高一貫教育校では、６年間を通したカリキュラムを編成するため、キャリア教育や探究学習のための時間を確保しやすく、これらを発展的・系統的に学ぶことができるというメリットがある。

一方で中高一貫教育校は、単に中学受験の選択肢を増やすということではなく、私学との役割分担や設置の意義など、神戸市における必要性を明確にするべきであり、全市的な視点から検討されたい。

また、生徒の専門的かつ多様な学びを支援するためにも、市内の大学等との高大連携の更なる充実についてもあわせて検討されたい。

（６）普通科のあり方

本有識者会議ではこれからの普通科のあり方についても意見交換を行ってきた。普通科はその名称のために特色のない学科と受け取られる傾向があるが、実際には、生徒が幅広い基礎知識をバランスよく身につける場としての役割を果たしており、今後も一定の必要性があると考えられる。

一方で、選ばれ続ける学校であるためには、生徒目線で学校の特色や教育内容、魅力が伝わりやすい新しい名称を工夫することや、生徒の得意分野に特化した能力をより伸ばすため、多様性を重視し、生徒の興味関心に応じた学びを提供する単位制へ改編することも考えられる。

また、普通科は入試においても制約が大きいため、学際的な学科への改編等も含め、現在の枠組みから抜け出すことも検討されたい。

最後に、これからも社会環境の変化に対応し、市立高等学校の進化を止めることなく、さらなる特色化・魅力化に取り組まれ、未来を生きていく子供たちの教育がより良いものになることを切に期待する。

資 料

1. 市立高等学校の特色等
2. 進路決定に際し重視したもの（学校別）
3. 中高一貫教育校について
4. 国の普通科改革
5. 兵庫県立高等学校の普通科新学科設置状況

1. 市立高等学校の特色等

○六甲アイランド高等学校

特色

- ・普通科単位制
- ・興味関心や進路希望に応じた専門教育
- ・より深い探究活動の実践及び理数教育の推進

特徴的な取組

- ・第3期スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校
- ・特色科目「神戸学」



カリキュラムの特長

- ・学習分野を6つの系・4つのコースに編成し、2年次からは希望進路に合わせて各コースで専門性の高い科目や約130の選択科目の中から必要な科目を選択できる。

※人文社会系、総合科学系、芸術系（音楽コース、美術・デザインコース）、ビジネス系、情報科学系、人間科学系（生活福祉コース、スポーツコース）

- ・前身の神戸商業高校の流れを汲み、商業系資格取得にも強い。（旧第1学区内に商業科なし）
- ・多数の大学と連携し、大学の講義受講や特別推薦入試を実施。

進路実績（学校案内より）

- ・三重大、和歌山大、公立鳥取環境大、京都教育大、兵庫県立大、大阪教育大、高知大、関西学院大、関西大、近畿大、兵庫医科大、同志社大、立命館大、大阪芸術大 ほか
- ・関西美容専門学校、神戸ベルェベル美容専門学校、上田安子服飾専門学校 ほか

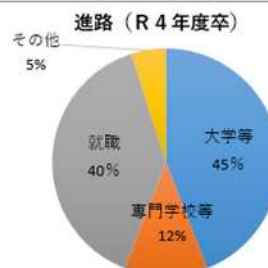
○科学技術高等学校

特色

- ・未来志向型エンジニアの育成
- ・地元企業や大学、高専との連携
- ・専門的なキャリアプログラム
- ・実践的かつ体験的な学習

特徴的な取組

- ・「KOBES・M・A・R・T Engineers育成事業」
- ・スポーツ支援振興センターによる部活動支援



カリキュラムの特長

- ・機械工学科では、最新型機器を専用ソフトウェアを活用して実習ができる。（国内唯一）
- ・電気情報工学科では、電気・電子・通信・情報を総合的に学習できる。
- ・都市工学科では、1年生で建築・土木の基礎を学び、2年生よりいずれかを専門的に学ぶ。
- ・科学工学科は進学型の専門学科で、理数分野を広く学習し、2年生で「理数科学類型」とスポーツ科学類型に分かれる。
- ・阪神・淡路大震災の教訓を引継ぐため、全国初の防災士養成の授業を開始（2018年4月）

進路実績（学校案内より）

- ・愛媛大、香川大、北見工業大、京都教育大、関西学院大、関西大、立命館大 ほか
- ・大阪ガス（株）、川崎重工（株）、関西電力（株）、（株）神戸製鋼 ほか

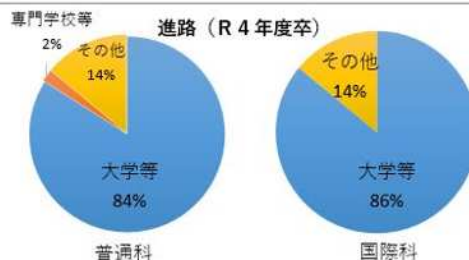
○葦合高等学校

特色

- ・普通科の他に国際科を設置
- ・5カ国9校の海外姉妹校等との国際交流
- ・国際理解や課題解決力を育てる多様な専門科目
- ・7人の外国人講師が常勤

特徴的な取組

- ・「KOBE AL ネットワーク事業」拠点校
- ・第2外国語（スペイン語・中国語）



カリキュラムの特長

- ・普通科では、2年生から文系・英語系・理系の3つに分かれ、進路に応じた学習に取り組む。
- ・英語系の選択科目「学際リサーチ」では、新しい価値観を創造する力を養う。
- ・国際理解や課題解決力を育てる多様な専門科目
- ・国際科では、国際理解を深める専門教科「国際」、課題解決力を養う「グローバルスタディーズ」を設置し、国際社会で活躍できる人材の育成を目指している。

進路実績（学校案内より）

- ・兵庫県立大、神戸市外大、東京外国語大、大阪教育大、大阪公立大、筑波大、大阪大 ほか
- ・近畿大、武庫川女子大、関西学院大、関西大、同志社大、関西外国語大、兵庫医科大学 ほか

○神港橘高等学校

特色

- ・多様な選択科目による専門性の高い授業
- ・地元企業と連携した商業教育
- ・特色部「龍獅團」

特徴的な取組

- ・通年型インターンシップ等の課題解決型学習
- ・みらいサポートセンターの設置



カリキュラムの特長

- ・全学年において、毎朝10分間の「Lタイム」に学校設定教科「リテラシー」を設定し、学びの基礎を徹底して習得する。
- ・2年生では、「会計類型」と「情報類型」に分かれ、高い専門性の育成を図る。
- ・3年生では、多様な選択科目（例：ビジネス情報管理）を配置し、希望する進路の実現を図る。
- ・総合的な探究の時間を中心に、系統的な道德教育を展開し、「人間力」の育成を図る。

進路実績（学校案内より）

- ・名桜大、同志社大、関西大、近畿大、甲南大、大阪経済大、関西外国語大 ほか
- ・西日本旅客鉄道（株）、阪急電鉄（株）、阪神電気鉄道（株）、陸上自衛隊 ほか
- ・大阪医専、大阪警察病院看護専門学校、神戸市医師会看護専門学校 ほか

○須磨翔風高等学校

特色

- ・総合学科単位制
- ・幅広い選択科目
- ・興味関心や進路希望に沿った学習
- ・充実したキャリア教育

特徴的な取組

- ・3年間の系統的なキャリア教育
- ・「キャリアプランニング」「教育」などの特色ある授業

進路（R4年度卒）



カリキュラムの特長

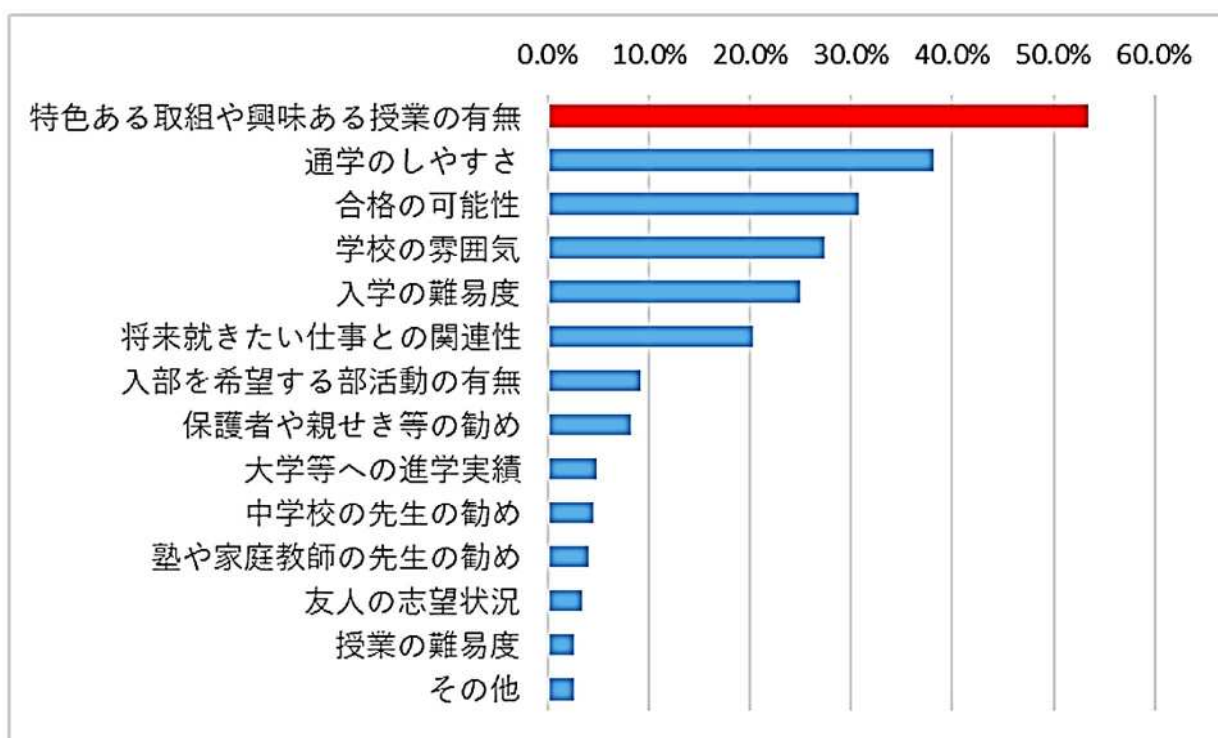
- ・2、3年次に5つの選択科目群「国際・文化」「科学・環境」「福祉・健康」「経営・情報」「教育・人間」の100以上の選択科目から進路希望に応じて選択し、自分だけの時間割を作成。
- ・学校設定教科「教育科」の「教育入門・体験」「学内教育実習プログラム」「教育問題の理解と発信」がある。
- ・「キャリアプランニング」「人間関係」をはじめ、学力向上、近隣の学校園・大学や地域との連携など、多彩な教育の展開。

進路実績（学校案内より）

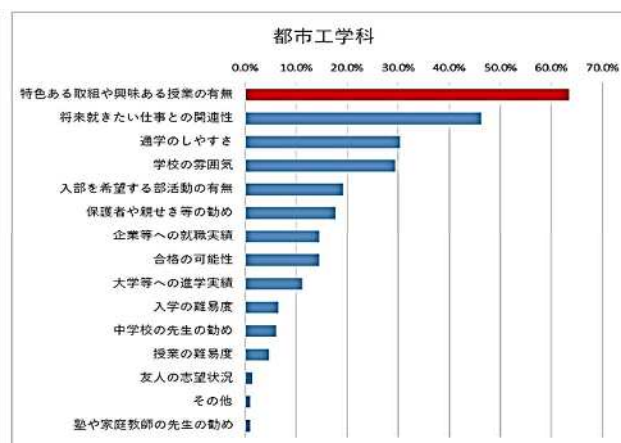
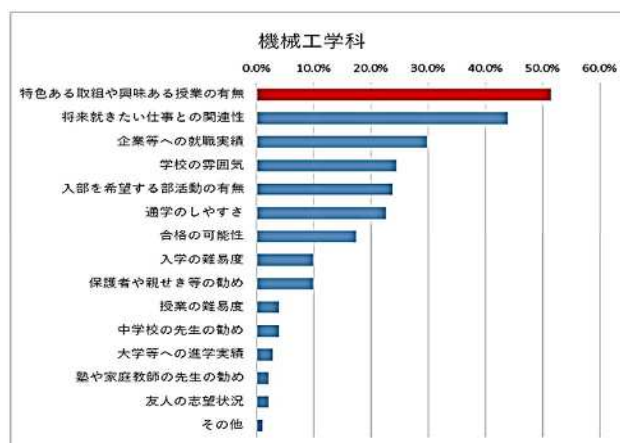
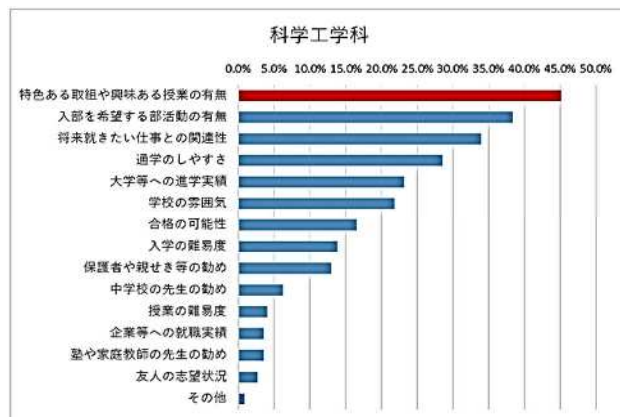
- ・大阪大、大阪教育大、慶應義塾大、早稲田大、武庫川女子大短期大学部 ほか
- ・神戸医師会看護専門学校、神戸看護専門学校、兵庫県立総合衛生学院 ほか

2. 生徒対象アンケートより「現在の学校を選ぶ際に重視したもの（学校別）」

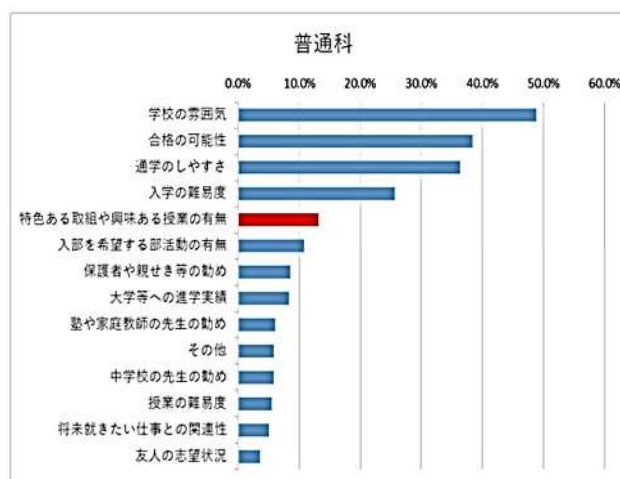
○六甲アイランド高等学校



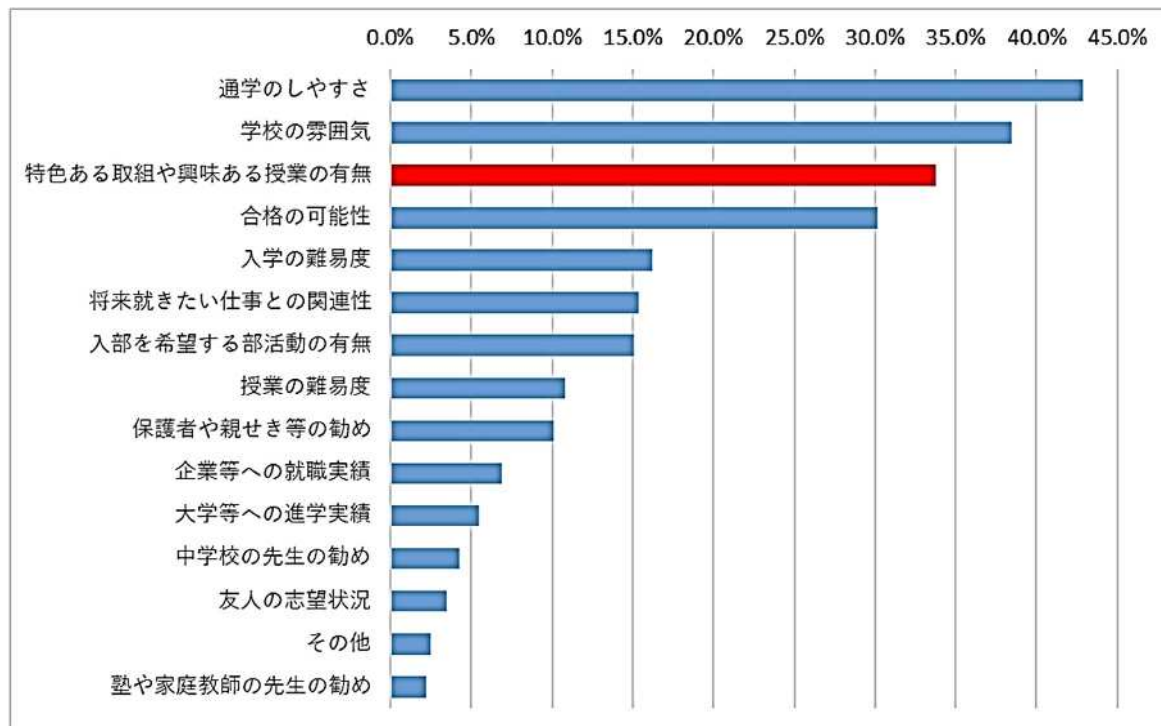
○科学技術高等学校



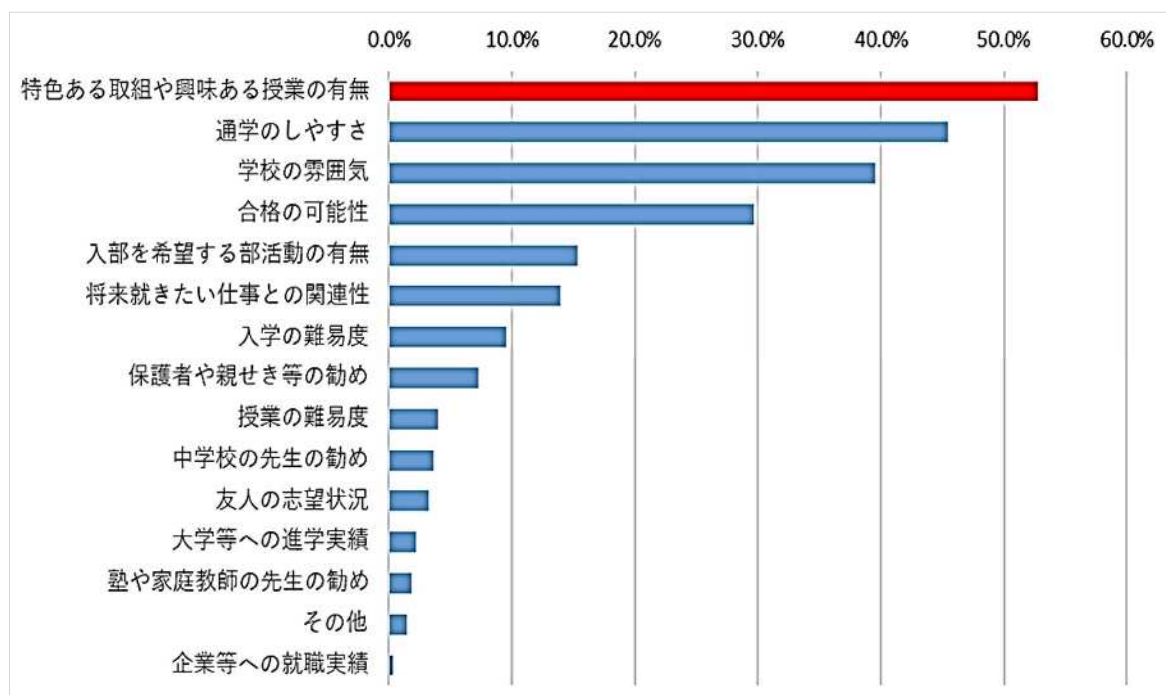
○葦合高等学校



○神港橋高等学校

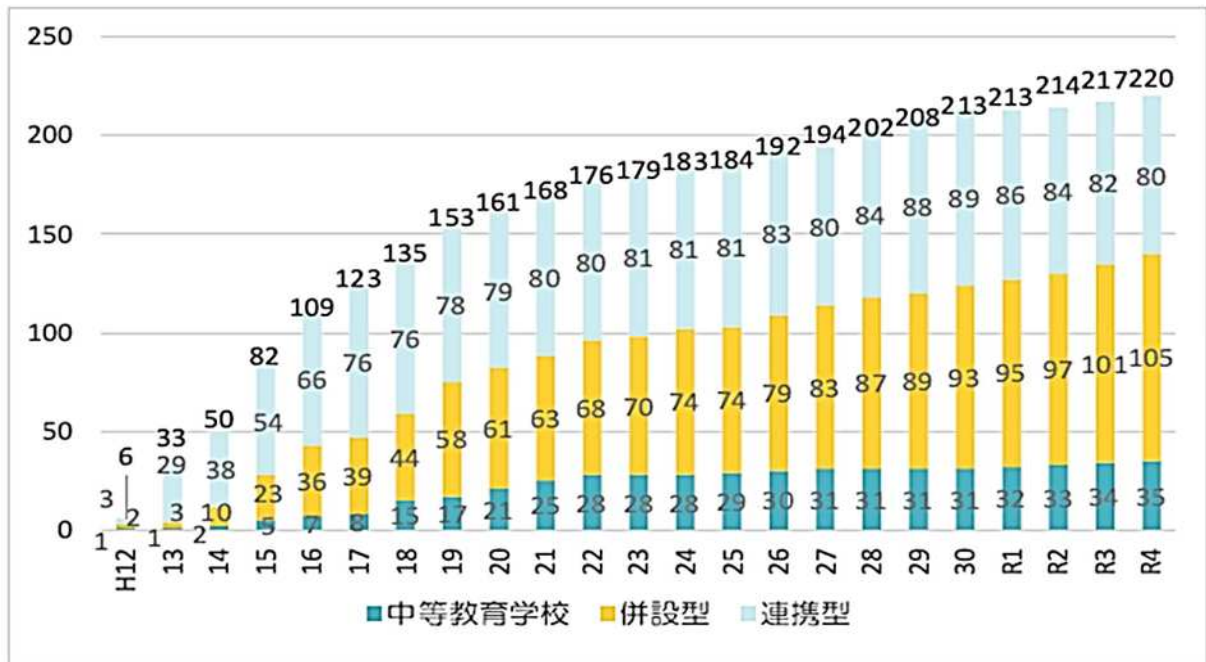


○須磨翔風高等学校



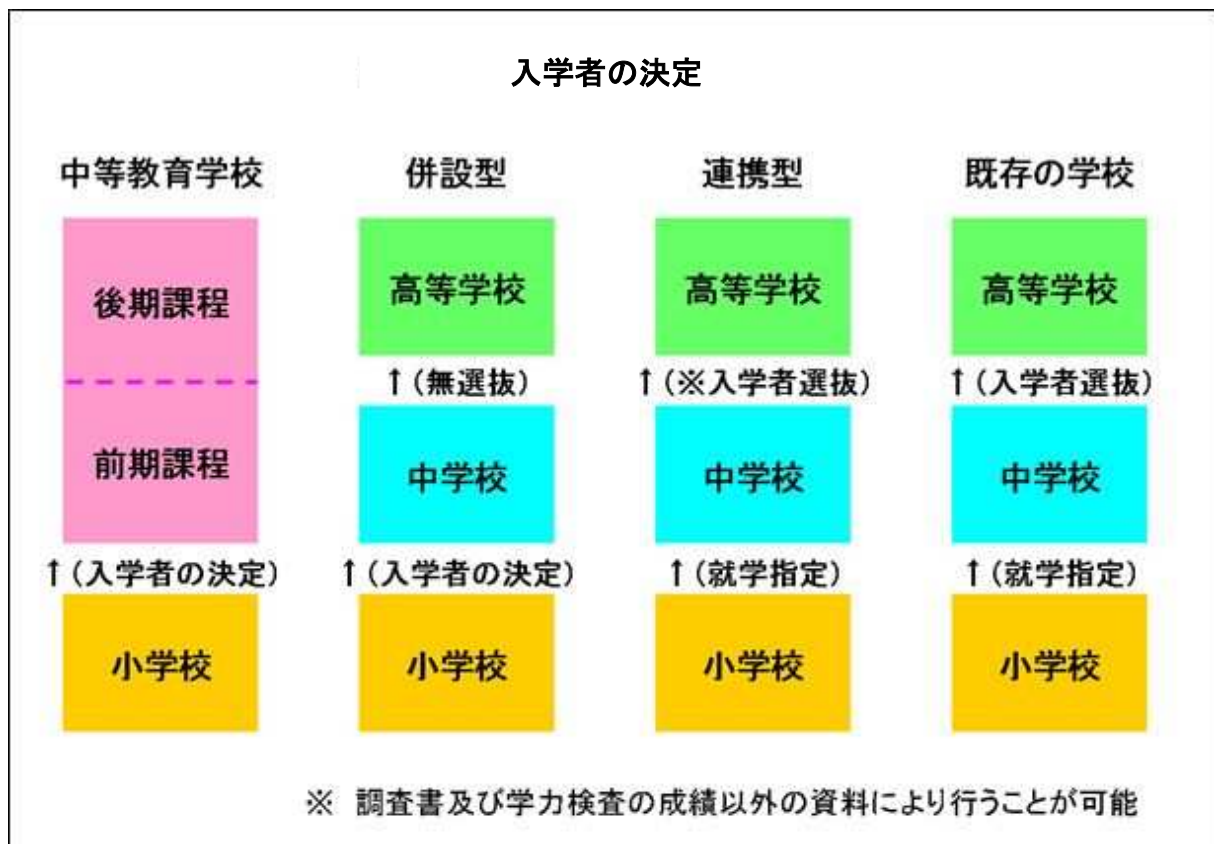
3. 中高一貫教育校

設置状況（公立のみ）



（出典：文部科学省「高等学校教育の改善に関する推進状況 令和4年度」）

入学者の決定

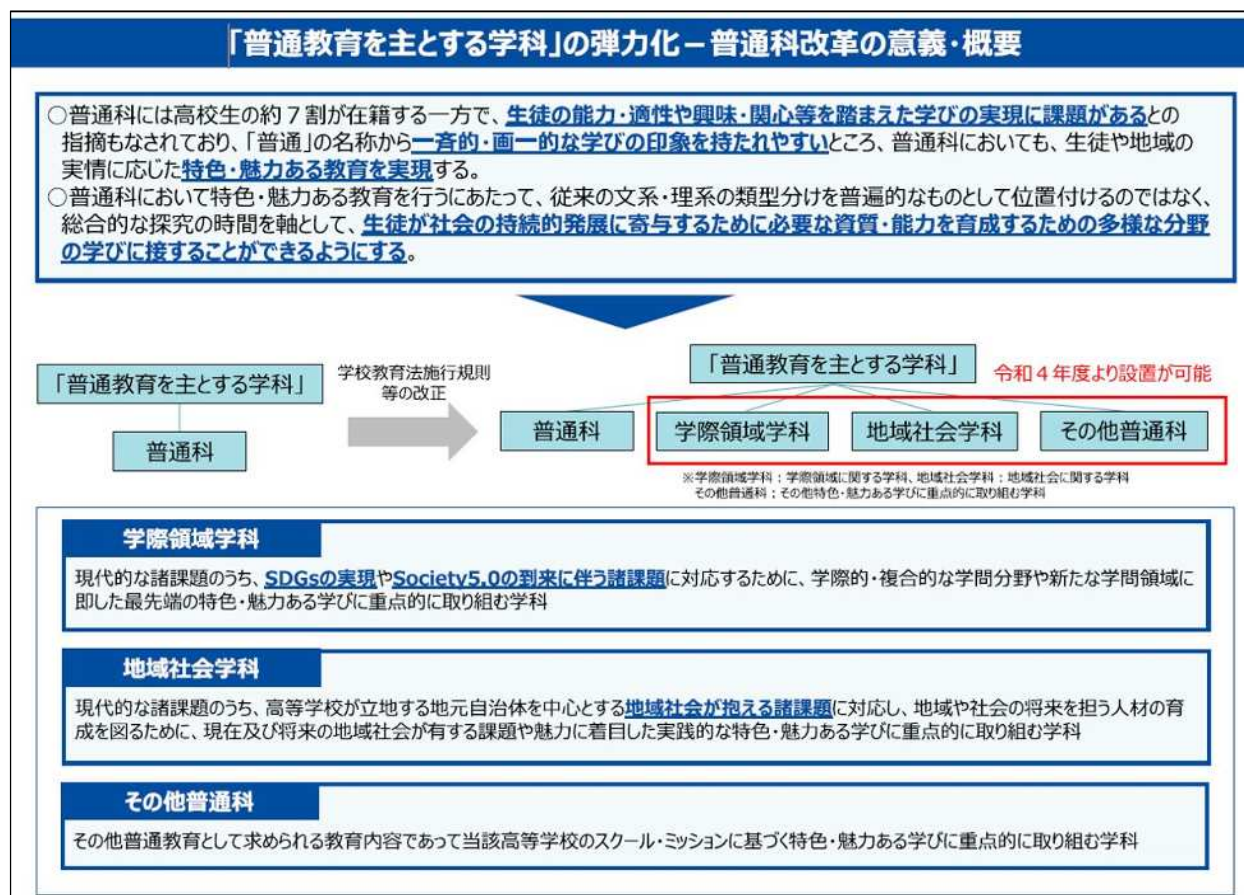


政令指定都市における中高一貫教育校設置状況

	都市名	設置	設置形態		学校名	備考
			中等教育	併設型		
1	札幌市	○	○		札幌開成	
2	仙台市	○	○		仙台青陵	
3	さいたま市	○		○	浦和	
			○		大宮国際	
4	千葉市	○	○		稲毛国際	
5	横浜市	○		○	南高校	
				○	横浜サイエンスフロンティア	
6	川崎市	○		○	川崎	
7	相模原市	－				
8	新潟市	○	○		高志	
9	静岡市	－				
10	浜松市	－				
11	名古屋市	－				
12	京都市	○		○	西京	
13	大阪市	○		○	咲くやこの花	R4大阪府に移管
				○	水都国際	R4大阪府に移管
14	堺市	－				
15	神戸市	－				
16	岡山市	○		○	岡山後楽館	
17	広島市	○	○		広島	
18	北九州市	－				
19	福岡市	－				
20	熊本市	－				

(市教委作成)

4. 国の普通科改革



5. 兵庫県立高等学校の普通科新学科設置状況

改編年度	選抜方法	学級数	定員
令和6年	2月（推薦入学）	1学級／学年	40名
対象校	旧コース・学科	新学科	
御影高校	総合人間系コース	文理探究科（学際領域に関する学科）	
八鹿高校	自然科学系コース	文理探究科（学際領域に関する学科）	
柏原高校	自然科学系コース	地域科学探究科（地域社会に関する学科）	
篠山鳳鳴高校	自然科学系コース	STEAM探究科（STEAMに関する学科）	
明石高校	理数探求類型コース	STEAM探究科（STEAMに関する学科）	
豊岡高校	理数科	STEAM探究科（STEAMに関する学科）	
姫路飾西高校	自然科学系コース 国際文化系コース	STEAM探究科（STEAMに関する学科）	

これからの市立高等学校のあり方に関する有識者会議 開催要綱

令和6年1月29日

教育長決定

(趣旨)

第1条 文部科学省の「普通科改革」や、今後予想される更なる少子化及びグローバル化の進展をふまえ、これから市立高等学校が育成すべき人材とそのために必要な教育内容など今後の市立高等学校のあり方の検討を行うにあたり、専門的な見地から幅広い意見を求めることを目的として、これからの市立高等学校のあり方に関する有識者会議（以下「有識者会議」という。）を開催する。

(委員)

第2条 有識者会議に参加する委員は、次に掲げる者のうちから、教育長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 保護者
- (3) 高等学校教育に従事する者
- (4) 人材育成の知見を有する者
- (5) 前各号に掲げる者のほか、教育長が特に必要があると認める者

2 前項の規定により委嘱する委員の人数は、10名以内とする。

(任期)

第3条 委員の任期は、令和7年3月31日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長の指名等)

第4条 教育長は、委員の中から会長を指名する。

2 会長は、会の進行をつかさどる。

3 教育長は、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、前項の職務を代行する者を指名する。

(意見の聴取等に関する協力の要請)

第5条 有識者会議は、必要があると認めるときは、第三者の出席及び意見の聴取並びに第三者からの資料の提出に関し、協力を要請するものとする。

(有識者会議の公開)

第6条 有識者会議は、これを公開とする。ただし、次のいずれかに該当する場合で、教育長が公開しないと決めたときは、この限りでない。

- (1) 神戸市情報公開条例（平成13年神戸市条例第29号）第10条各号に該当すると認められる情報について意見交換を行う場合
- (2) 有識者会議を公開することにより公正かつ円滑な懇談会の進行が著しく損なわれると認められる場合

2 有識者会議の傍聴については、神戸市有識者会議傍聴要綱（平成25年3月27日市長決定）を適用する。

(施行細目の委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、有識者会議の開催に必要な事項は、教育委員会事務局長が定める。

附 則（令和 6 年 1 月 29 日決裁）
（施行期日）

- 1 この要綱は、令和 6 年 1 月 29 日より施行する。
（要綱の失効）
- 2 この要綱は、令和 7 年 3 月 31 日限りで、その効力を失う。

委 員 名 簿

（敬称略・五十音順）

名 前	所属・役職等
浅野 良一	環太平洋大学 次世代教育学部 教授 兵庫教育大学 名誉教授
井上 和彦	神戸市私立学校協会 会長
岡田 恵実	流通科学大学 商学部経営学科 専任講師
鴨井 幸造	バンドー化学（株） 人事部長
齋藤 勝洋	神戸市 PTA 協議会 会長
佐合 純	iC（株） 代表取締役
佐藤 春実	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 教授
野村 和宏	甲南大学 全学共通教育センター 特命教授 グローバル教養学環 STAGE 学環長 神戸市外国語大学 名誉教授
船木 伸江	神戸学院大学 現代社会学部社会防災学科 教授
ラッシラ エルッキ タピオ	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 助教

（計 10 名）

これからの市立高等学校のあり方に関する有識者会議 開催実績

回	開催日	開催場所 (オンライン併用)	検討事項
第 1 回	令和6年 1月29日(月)	教育委員会会議室	・検討の視点
第 2 回	4月26日(金)	神戸市総合教育センター 701 会議室	・市立高校が育てたい人材像
第 3 回	7月 3日(水)	神戸市総合教育センター 701 会議室	・市立高校が育てたい人材像 ・重視すべき教育
第 4 回	10月29日(火)	神戸市総合教育センター 706 会議室	・市立高校の未来像 (重視すべき教育)
第 5 回	12月23日(月)	神戸市総合教育センター 701 会議室	・意見のまとめ(案)
第 6 回	令和7年 2月 5日(水)	神戸市総合教育センター 701 会議室	・意見のまとめ(案)